

2021年8月

会員各位

一般社団法人茨城県保険医協会
会長 宮崎 三弘

**下記にご署名(ゴム印でも結構です)いただき、FAXにてご返信をお願い致します。
※茨城県保険医協会【FAX：029-822-1341】※第1次締め切り9月30日**

内閣総理大臣 殿
厚生労働大臣 殿
国会議員 各位

次期改定に向けて、金パラ「逆ザヤ」の抜本的な解消を求める要請署名

歯科治療に欠かすことのできない金属材料である金銀パラジウム合金（金パラ）の価格が高騰を続け、歯科医療機関での購入価格が保険償還価格を上回るいわゆる「逆ザヤ」の状況が長期間にわたり続いています。保団連の調査によれば、4月～6月の購入価格は平均98,370円で、30グラムあたりの告示価格80,040円に対して18,330円、2割を超える大きな「逆ザヤ」となっています。10月には随時改定Ⅰが実施されますが、改定価格も2,951円（88,530円）で、実態にはまったく見合わない「逆ザヤ」前提の改定です。

現行の「随時改定」は、(1)価格の参照時期から改定実施までに大きなタイムラグがある、(2)価格の変動率が一定未満（Ⅰは5%、Ⅱは15%）では改定が実施されず、価格乖離の長期化が起こる、(3)随時改定は金パラの実勢価格に基づかず、素材（金、銀、パラジウム）となる貴金属価格の変動に基づいた机上の試算価格にすぎない。そもそも、金パラの市場実勢価格を定期的に把握する仕組みが存在せず、実態を検証するデータもない、(4)2年に1度の金パラの市場実勢価格調査は非公開であり不透明であるなどの問題があります。

厚労省も全国の歯科医療関係者の声におされ、2022年度診療報酬改定の課題として認識し、中央社会保険医療協議会（中医協）のテーマにしています。

私たちはこの機会に、金パラ「逆ザヤ」の解消を求めます。

記

一、次期改定に向けて、金パラ「逆ザヤ」の抜本的な解消を求めます

以上

私の一言

住 所：

医療機関名：

氏 名：